

第3回調布市教育プラン改定作業チーム会議

1. 日 時 平成26年7月23日（水）午前10時00分
1. 場 所 教育会館3階 301研修室
1. 出席職員
- | | |
|-------------|---------|
| 教 育 部 長 | 宇津木 光次郎 |
| 指 導 室 長 | 村 木 尚 生 |
| 教 育 部 次 長 | 塩 足 眞 |
| 教 育 総 務 課 長 | 阿 部 光 |
| 教育総務課施設担当課長 | 佐 藤 昌 一 |
| 学 務 課 主 幹 | 窪 田 秀 文 |
| 学 務 課 長 補 佐 | 元 木 勇 治 |
| 社 会 教 育 課 長 | 小 柳 栄 |
| 教 育 相 談 所 長 | 堀 江 朝 子 |
| 東 部 公 民 館 長 | 金 子 勝 巳 |
| 西 部 公 民 館 長 | 御 前 智 則 |
| 図 書 館 長 | 小 池 信 彦 |
| 郷 土 博 物 館 長 | 高 野 千 尋 |
1. 事務局出席者
- | | |
|---------------|---------|
| 教育総務課長補佐兼 | 高 橋 慎 一 |
| 教育総務課庶務係長事務取扱 | |
| 教育総務課庶務係主事 | 市 野 貴 子 |
| 教育総務課庶務係主事 | 吉 野 秀 郷 |

○高橋教育総務課長補佐兼教育総務課庶務係長　おはようございます。それでは、ただいまから第3回調布市教育プラン改定作業チーム会議を始めたいと思います。

今日お配りしている資料につきましては、日程と資料7という内容になっております。

それでは、初めに、チームリーダーである宇津木教育部長に進行をお願いしたいと思います。

○宇津木教育部長　改めまして、おはようございます。第3回目になる調布市教育プラン改定作業チーム会議、前回、2回目までの中で議論してきた内容、今日少し骨格が出てきていると思いますので、引き続きぜひ活発な意見交換をしていけたらと思っていますので、よろしくお願いいたします。

この間の2回の検討の中では、前回、改定教育プランの施策と事業の体系について議論したと思います。本日、事務局からその結果を踏まえた新たな施策体系案について説明があると思いますので、それについて活発な意見交換をしていただいて、限られた時間ですけれども、できるだけこの会議の場で方向性を出せればと思っていますので、よろしくお願いいたします。

では、早速議事日程に沿って会議を進めさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

では、最初に、事務局から説明をお願いしたいと思います。

○高橋教育総務課長補佐兼教育総務課庶務係長　それでは、資料7につきまして御説明したいと思います。

ちょっと前回の会議を振り返ってみたいと思うのですが、前回の会議で改定教育プランの考え方を明らかにする、まず体系を決めていこうという形で、教育プランの改定スケルトン案、A案、B案というのをお示ししたところですが、A案については、今までの教育目標と基本方針に沿った形で施策を振り分けていったもの、それからB案については、今まで基本方針の表現が少し分かりにくい、理念的なものになっていて、それに施策をぶら下げていくことがちょっと見えにくいといえますか、分かりにくさといったものがあったということもありましたので、施策展開の視点という、施策を一度分野ごとにフィルターを掛けて、もう一度施策体系を明らかにしていくというような形で示したものであるということで、2案お示ししたところですが、会議の中ではおおむねB案のほうがいいのではないかとはいえるところもありまして、おおむねB案を基本にして今後もう少し体系案の検討を進めていこうという形になったところですが。

そうした前回の振り返りを踏まえて、今回はB案を基にして、B案では個別施策というところまでお示ししておりませんでしたので、その施策を少しまた整理を掛けたものと、それから主要事業をぶら下げてみるというのが今回の資料7の概要でございます。

初めに、左側から見ていただきたいのですが、今回、施策展開の視点、前回は4つの視点、学校教育では徳知体をもう一度見せながら施策をぶら下げるといようにしていました。徳知体は、説明書きとしてサブタイトルを入れているのですが、「徳知体の調和のとれた成長と社会の変化に対応できる力の育成」をしていく施策ですと。主に、児童・生徒に対する教育活動といったものになると思います。

その下にある学校環境、これが前回の会議の中でも少し分かりにくいと。教育環境ではないかとか、学習環境ではないかとか、環境というとハード面というようにとらえられやすい、そのような意見もありましたけれども、サブタイトルで上にある学校教育、その教育活動を補完していくといいますか、支援していく。学校教育支援が学校環境ですと。それはソフト・ハードも含めてというような形で、ちょっと説明書きのようなサブタイトルを入れてみました。その中には、学校経営の視点ですとか、学校における人材育成の視点、それから施設整備といったようなものをその中に含めて、それらが学校環境として学校教育を支えていくものだと。そういう視点の分け方になっています。

その下は、学校・家庭・地域の連携ということで、連携だけではちょっとよく分からないので、連携による学校教育を支援するものと。基本的には学校教育を支援する連携ですというところの視点。

最後に、これは前回社会教育というようにしていたのですけれども、市民一人一人の生涯にわたっての学習を支援していく社会教育を包含した生涯学習という視点に、市の基本計画とも整合させる中で、生涯学習という視点に変えたというところで、基本的には4つの視点を大きなものとしながら個別の施策をそこにぶら下げていってみたいかどうかという内容であります。

基本的に教育委員会の事業とか施策については、大きくこのプランを変えたからといってやることが変わるといったものではありませんが、プランを市民に説明する、あるいは一般に見せていくという中では、もう少しこういった視点を少し分野ごとに分けて見せていくということも必要ではないのかというところで、このような視点をフィルターとして掛けてその下に施策をつなげていくという形になっています。

右に行っていただいて、その施策展開の視点から個別施策をぶら下げているわけなので

すけれども、前回は施策が20個ありました。今の教育プランでは24個ありますので、前回20にちょっと削ったのですけれども、24から20では余り減った感じがしないといった御意見、それから教育長からは16ぐらいでという話もありましたので、基本的に16になっています。特に徳知体では、徳で人権教育の推進とか道徳教育の推進というのを施策で入れていたのですけれども、それらも、徳は①の豊かな心の育成、知の分野では、確かな学力の育成、体の分野では、健やかな体の育成という形で、育成に一本化しました。徳と知と体、それぞれの施策を分けたときに、それらが一体となってやっているような活動もあるので、ちょっと分けにくいので、帯を1つにしました。ちょっとそういう関係もあって、下にぶら下がるのも、一応①に連動しているものとか、いろいろ付けているのですが、この帯は1つでいこうと思っているところです。

次の学校環境につきましては、学校教育の支援という意味で、学校教育の中と重なる部分もあって、この辺は難しいのですが、基本的にはソフト・ハードにわたって学校教育を支えていくものという視点で④から⑨の施策をぶら下げています。いじめ、不登校対策の強化、教職員の資質、能力の向上、教育相談の充実、特色ある学校づくりの推進、危機管理体制の強化、学校施設整備の推進といったところで、ハード・ソフトにわたって学校教育を支援していくものという観点で施策を置いています。ここはそんなに大きくは変えていない、表現は少し変えている部分はあるのですが、そんなには変えていないと思います。

次の学校・家庭・地域の連携につきましては、前に下の社会教育分野にあった家庭の教育力の向上と青少年の育成を、これは学校・家庭・地域で連携して、学校教育を支援していくものという意味で、この連携分野も移行してきています。下のほうの社会教育分野が膨らんでいたもので、少しここに持ってきて、若干ボリューム的なものを分散したというところもあります。

それから生涯学習分野、これは社会教育分野と言っていたものですが、これについては、学習機会の提供と学習活動の支援は別々にしていたのですが、これを一本化したりして、3つに統合したというような内容になっています。

こうしたことによって、20から16ということで、施策を少し絞り込んだという内容になっています。

それから、今回、新たに主要事業ということで、施策と主要事業を明らかにしていきたいというところの中で、主要事業をちょっとお出ししています。まずは、調布市の基本計画、今、見直し作業を各課のほうでも進められていると思いますけれども、基本計画で言

っているA事業については入れざるを得ないだろうというところで、一番左側に持ってきています。①は命の教育活動の推進（指導室）、少人数学習指導の推進（指導室）、特別支援教育の推進（指導室）、学校における食育の推進（学務課）といったようなことで、左側にある個別施策の番号に対応した基本計画事業、A事業をここに掲げています。個別施策にないものもありますので、そこはなしというように表現していますが、おおむねA事業は一番左側に掲載して、個別施策との連動をお見せしているという内容です。

次に、基本計画のB事業が真ん中にありまして、①でいけば、中学生の職場体験学習の推進、学校図書館の活動の推進、宿泊体験事業の体系化、特色ある教育活動の推進といったようなところから、生涯学習分野の子どもの読書活動の推進、調査活動の支援、国史跡深大寺城跡の整備、地域まるごと博物館等々をここにまとめていますが、この辺、主要事業といった中で、B事業についてはどこまでこれを載せていくべきかというのは議論の余地があるのかなというところ です。

基本計画事業だけでは、ちょっと分からない部分もあるかと思しますので、皆さんのほうでは何となく御承知おきいただけるのかと思うのですが、基本計画事業以外の主要事業と思われるような事業について、一番右側のA・B以外の事業というところで、細かくは書いていないのですが、大体このような主要事業があるのではないかというところで、事務局のほうで掲載してみたという内容であります。

今日はこの教育プランスケルトン（B案修正版）について、この内容で進めていくべきか否か、あるいは主要事業としては載せるべきでない、載せるべきだというような御意見などもいただいでいきたいなと思っています。

それから、右上の四角囲みの説明なのですが、この教育プラン、構成は個別施策16に主要事業をぶら下げるとい形になるのですが、この施策体系だけでない重点課題として見せていくもの、あるいは施策にはちょっと載せられないのだが、今後4年間のうちに必ずやっていかななくてはならないようなものというようところで、重点課題をこれとは別に教育プランの中で見せていく必要があるのかなと思っています。その課題としては、そこに例として挙げたのは、教育委員会制度改革への対応、特別支援教育を充実させていくこと、アレルギー疾患等の事故防止に対する取組、学校施設の老朽化・長寿命化、あるいは防災機能の充実、そういったところは、今、教育委員会の中でも大きな課題として取り組んでいくべきものというところで、この施策体系のものとは別に課題として見せていくことも必要かなと思っています。

資料7についての説明は以上でございます。

○宇津木教育部長 事務局、ありがとうございました。前回スケルトンAとBという形でたたき台が出ていた内容を、さらにBについて精査してきた内容というのが今日の資料7ということになるのですけれども、ちょっと前回の内容を思い出していただきながら、今回の資料の中で施策の展開の視点、4つに絞り込まれて、その下にサブタイトルという形の中で、それぞれの施策展開の視点が書かれているのですが、この辺の内容を明確にしていけないと、それ以降の個別の施策とか主要事業も何をぶら下げていくかというところが見えてこないところも出てくると思います。

そんな中で、今日、まだ案の段階だと思っていますので、これを少し精査していきながら個別の施策、主要な事業の内容について明確化を図っていければというのが大きなテーマになると思っていますので、各所管も含めて、まずは意見をいただきながら前回までの議論の中でちょっと分かりにくかった点も含めて、事務局とまた質疑できればと思っています。ぜひ施策展開の視点のところから全体像を含めて御意見をいただければと思うのですが、ちょっと口火を切れるような方はいらっしゃいますか。では、室長からお願いします。

○村木指導室長 御苦労さまです。随分見やすくなったなというのが第一印象で、個別の施策、16の並びというのでしょうか、例えば、あえて知徳体と言わないで、徳知体として並べておいて、1番、2番、3番と来ていますよね。それで言うと、2つ目の学校環境についても、ある程度重要度の高いものとか、私たちが力を入れようとするものの並びにしたほうがいいのかというのが1つです。そこは特に何か意図があるわけではないのですよね。可能ならば、やはり重要度というか、課題の大きいものから並べていくといいのかなというのが1つ。

基本計画のA事業、B事業と整理していただいて、それ以外の事業を一番右側に並べていただいているのですが、一番上の四角囲みで囲ってあるところは結構ざっくりとした事業名になっているのですよね。それに比べると、④から⑯辺りが結構具体的になってきているので、特に④から⑨までの枠と⑩から⑬の枠については、もっとざっくりでいいのではないかと。何かここだけ具体的な事業になっているので、例えば上から2つ目の四角囲みであれば、やはり安全教育、防災教育、教育相談などというようなくくりぐらいでいいのかなと思うのです。

○宇津木教育部長 ありがとうございます。今の意見について、事務局いかがですか。

○高橋教育総務課長補佐兼教育総務課庶務係長　この辺、余り均一感のない書き方は確
かにおっしゃるとおりだなというところで、どのぐらいのレベルで書いていくかというの
もやはり課題なのかなと。ちょっと取り急ぎといたしますか、イメージできるようなもの
というところで、若干濃淡が出てしまっていますが、その辺は確かに表現のレベルを合わせ
ていくという作業は必要かなとは思っています。

○宇津木教育部長　やはり特に④から⑬までについては、これからしっかりもう一回精
査をしていったほうがいいのかな。まずはたたき台として前回の抽出した施策の内容を入
れてもらったというところなのですが、今、室長からも出た意見を踏まえて、もう少し分
かりやすくまとめ直しをしていったほうがいいのかなというのがありますので、その辺も
含めて。

○高橋教育総務課長補佐兼教育総務課庶務係長　基本計画事業がこういう書き方なので。

○宇津木教育部長　基本計画事業は基本的に今回は改定とはいっても動かせないと思っ
ています。ただ、それを踏まえても、個別施策は分かりやすくまとめていきたい。

○高橋教育総務課長補佐兼教育総務課庶務係長　ある程度基本計画事業の表現といいま
すか、レベルを合わせる必要があるのかなと感じるところではあります。ただ、この辺余
り細かくしていくと、また主要事業の多さみたいなものをどうしても感じざるを得ない状
況になっていくわけなのです。ただ、138事業よりは大分絞れていくのかなと思います。

我々のほうで勝手に入ってしまったので、これは主要事業ではないよというものも各課
のほうで多分あるのではないかと思いますし、そこはどんどん御意見をいただいて精査し
ていきたいと思っています。

○宇津木教育部長　どうですか。ほかに。もっと違う視点でもいいのですけれども。

まず、大きな視点の中で、この施策の展開の4つ、前回話していた中では、学校教育と
学校環境、家庭と地域の連携、生涯学習と4つにまとめ直しをしてもらったのですけれど
も、今回、生涯学習という名前を出したり、全体として改定の教育基本法に沿ったような
項目出しにはなっているのですが、やはり教育目標としては子どもたち一人一人の個に応
じた教育を充実させていくという視点の中で、学校教育とか学校環境、家庭・地域との連
携を出さざるを得ないのだろうと。そういったくくりで今回まとめさせていただいてい
るのですが、それプラス、生涯にわたって学習をしていくのだという生涯学習の視点を出さ
せてもらっているのですけれども、教育目標に連なる基本方針、調布市の場合は5つある
のですが、そのくくり方も含めて、こういったサブタイトルも、視点も含めてのくくり方

に対しての意見はどうか。特に社会教育分野の方とかは、生涯学習とか家庭・地域の連携というところにちょっとかかわってくるのかなと思うのですけれども。

社会教育の視点、それから学校教育と学校環境というのもなかなか分けづらいところが正直ちょっとあるなどは思っているのですけれども、この辺の4つの相互関係をちょっと明確にしていきたいと思うのですが、それぞれの所管の意見はどうか。

○小池図書館長 前に社会教育計画を作るときに、社会教育という言葉と生涯学習という言葉についての使い分けについては結構熱い議論があったかと思うので、生涯学習というのを教育プランの中で出してくる場合の、新たに定義というか考え方を明確にしなければいけないのかなというのがちょっとうまく自分の中で整理できていないのですけれども、まずそれが1点あります。

ただ、今、国を始めとした生涯学習というのがまず前面に出てきて、その中での社会教育だとかその他の話が出てくるのかなという、整理の仕方をされているので、言葉として生涯学習というのがまずあり、その中に今回整理されたようなところが出てくるのかなというところでは理解しやすくなったのかなと思っています。

それと1点、質問というか、当面の話になると思うのですが、この計画は当面の5年ぐらいの話になるかと思うのですけれども、従来あったスポーツというのが今はいわゆる市長部局に移管されていますけれども、今後もそういうことで、昔言っていた、いわゆる社会体育という、スポーツというものの中で、流れがあったわけですね。だんだん余り社会体育などという人はいなくなって、どっちかというスポーツということで整理されていったのですよね。今後はもうその流れというように、その辺は変わらないという前提でよろしいのでしょうか。これからまた所管替えだとかいろいろな話の中で、オリンピックを見据えた場合には多分変わらないのだろうなどは思っているのですけれども、その辺は変わらないという認識で進めてしまってよろしいのでしょうか。多分オリンピックがあるから、それを考えると東京都を始め今の体制はそんなに変わらないだろうなど。

○高橋教育総務課長補佐兼教育総務課庶務係長 先ほどの話にもちょっとあったように、教育委員会制度改革というのが今回あって、来年4月から施行という形になるのですが、その中では、教育行政にある程度市長といいますか、首長の関与を強めるような体制にもなっているという中で、今まできっちり教育委員会と市長というところで役割分担をしていたものが若干オーバーラップして動く部分が出てくるということもあって、今はスポーツ振興については教育委員会から市長部局に移管しているというところではあるのですが、

その体制は今のところは変えずに、市長部局と教育委員会がより連携、連動していきながら教育行政の振興を図っていくという考え方でよろしいのではないかと思います。

○宇津木教育部長 館長もよく知っているとおりに、調布の生涯学習と社会教育は歴史的にも説明が難しい話になっていくのかなと。ただ、施策体系の中でスポーツはスポーツの振興と分けているし、文化は文化の振興と分けているし、生涯学習は生涯学習の推進という形で、施策もそういう分け方をしているのです。そういう意味では、調布の生涯学習は社会教育のことを表していると個人的には思っています。

そういった視点からすると、あえて教育プランの中で社会教育という名前を出してしまうと、区別をしているのかなというように個人的には思っているので、今後の市の展開というのは、やはりスポーツ、文化、生涯学習という形で施策展開していく中で、社会教育も生涯学習の中で、その主なものという形の中で展開していくのかなと。生涯学習と社会教育を余り意識せずに、生涯学習イコール社会教育的な考え方で進めていくべきなのかなと個人的には思っています。そういう意味で今回この施策の名前は社会教育とあえて出さずに、生涯学習という形で統一させていただいたというのが個人的な思いなのです。何かその辺、異論はありますか。

○高橋教育総務課長補佐兼教育総務課庶務係長 基本方針の4でも、生涯にわたって自己実現を目指す機会を提供するなどと言っているところもあって、そんなに違和感はないのかなと。

○宇津木教育部長 言葉にこだわりがあるというのは当然あるとは思いますが、あえてそこは、やはりこれからの市の施策展開を考えていくと、そこに区別はしていけないという形のほうがいいのかなと思っています。内容は社会教育になるという感じかなとは思っています。

この辺どうですか。全体として。今、社会教育分野の話になっているのですが、ちょっと余談ですが、学校とか家庭とか地域の連携というのも、ここも事務局でも書いていますが、やはり学校とか子どもたちを支えるという意味で、家庭とか地域が関与していかなければいけないというところで、今回の教育プラン、施策展開を明確にしていければいい。一緒にやっていくというよりは、やはり家庭とか地域の教育力を高めていかなければいけないのではないかと。それによって学校だけではなくて、子どもたちを支えていくという、前、室長が共に育つ共育というような視点を入れていたと思うのですが、そういった視点がこれから必要になってくる。学校だけではないと。そういう意味で、

学校・家庭・地域の連携の中に青少年の育成とか家庭教育の支援というのが入ってくると思っています。

ここに児童・生徒の安全確保というのが入るのか、先ほどちょっと意見が出た防災教育みたいなものを入れてしまうというのも1つの考え方なのかなと。命の教育の分野ではなくて、地域で防災力を高めていくという意味での防災教育というのを、前段の社会教育というのを生涯学習に変えた時点で、家庭とか地域の連携の中に防災教育を入れていくというのも1つの調布の売りにはなっていくのかなという気もしています。そういったところで、ちょっと色を出せないかなという気はしています。

ここの児童・生徒の安全確保とか、⑧の危機管理というのがどのように絡んでくるのかなどというのも微妙なところかなと。そこはやはりサブタイトルが何を目指しているのかというところでちょっと決まっていくところはある。どうしてもオーバーラップするので、やはり決め事が必要になってくる。

そういう意味では、学校環境というのも、ソフト・ハードというのもあるのですけれども、やはり上の徳知体ではないような部分での個に応じた教育という分野がここに入ってきてもいいなどと思っているところもあるのですが、それは具体的には何かというと、特別支援教育の推進というのが本当に②なのか、ちょっとこの辺が確かな学力の育成というところに特別支援教育をくくってしまっているのか、また御意見をいただければと思っています。

あと、先ほど質問が出たけれども、いじめと不登校と教育相談というのも、こういう頭出しできちっと分けて出していく大ききなのかな。この辺も④と⑥がどういう関連付けになってくるのかというのも学校環境という中では、やはり整理が必要なのかなとは思っています。

いろいろと感想めいたことを言ってしまったのですが、ほかにもどうですか。社会教育のこと、あるいは学校教育と学校環境の分け方とかを含めて。本当にどんどん意見を述べていただいたほうがいいと思います。それ以外でも全然問題ないので、こういう場ですから、日ごろの内容で教育プランって一体何なのだというところも含めて話していただいてもいいかなと思います。

○高野郷土博物館長　このスケルトンを見ると、どうしても主要事業とかというのは社会教育の、例えば郷土博物館でもすごい個別具体的に出てくるのですが、学校教育環境というところが幅が広くて、奥が深くて、この部分ではなかなか表現しにくいのかなという

のが印象なのです。

なので、これはあくまで骨子、モデルのようなものだと思うのですがけれども、生涯学習の部分はすごい個別具体的なので、何か余りにも掛け離れて見えるというか、内容的にはこのとおりの表現で示していただいて、生涯学習のほうというか、例えば郷土博物館から見たら本当に有り難くて、一生懸命やられているなという感じがするのです。学校教育、学校環境、地域の連携とかというのは幅がすごく広くて、これに載せ切れないだろうなというのがよく分かる表かなと思っています。

先ほどの話の中で、例えば学校・家庭・地域の連携という部分が本当に、個別でいろいろな話を聞いていると、余りにも学校に頼り過ぎているというか、家庭教育というのがおざなりというか余りなくて、何でもかんでも学校に頼るというか、これでは先生方も非常に大変というか、本来は家庭がやるべき部分を先生が心配しなければいけないなどという感じが、日ごろから感じているのですけれども、それが如実に出てきてしまって、まさに家庭教育に期待したいということで載せているのだと思うのです。

幅がすごくあって、生涯学習の部分が余りにも具体的に見えているので、大変なのだなと。すみません、意見に全然なっていないのですけれども、非常に苦労しているのだろうなと感じます。

主要事業をここに載せると、なかなか学校の、例えばいじめとか不登校とかというのは、取組のほうに出てこないとかというので、表現がすごく難しい。そんな気がします。

○宇津木教育部長　　今、A事業とかB事業とかその他と書いていますけれども、最終的にはこういう分け方ではなく全体で見せていくというような形にはなっていくとは思いますが、こうやって見ると、A事業がないと薄く見えてしまったり、生涯学習は施設ごとに施策を持っているので、どうしても結構細かく出てきてしまうと思うのですが、そこはこれからの見せ方、工夫だと思います。まずは、A事業、B事業それ以外、他の事業という形で事務局がまとめてくれて、これはこれで分かりやすくはなっている。今後の見せ方はちょっと工夫が要ると思います。

○村木指導室長　　具体的なところでちょっと2つあるのですがけれども、個別施策の16の中の、先ほど部長からお話があった④と⑥の取扱いなのです。いじめとか不登校対策というのは、いわゆる子どもの心身にかかわる問題であったり、命にかかわる問題なので、中身的にはすごく重い話題なのですけれども、基本はやはりだれにでも相談できるという⑥のスタンスを貫くことが大事なのかなと思うのです。確かに課題としては大きいし、特に

子どもの自殺とか、そういうこともあるので、頭出ししておくことは大事なのかなもしれないのですが、これはちょっと特化した内容なのかなという印象があります。

そういったことを考えたときに、やはり教育全体でどう位置付けるかとなったときにはやはり教育相談なのかな、そこに含まれてもいいのかなというのが1つ。

それから、逆にA事業の中で、これも部長からお話があった特別支援教育の推進については、これはやはり学校教育だけではなくて、この理念というのは、社会全体でやはりとらえていかなければいけない内容なのかなと思うので、この表記の仕方をどうすることが市民に伝わりやすいのかなというところなのです。もう全くこの枠を超えて、それこそ横断的かというと、縦断的かというと、そういう位置付けをしておかないと、学校だけで頑張ってもなかなか市民に伝わらないというのが今特別支援教育の現状だと思うので、この理念というのは、何か見せ方を工夫しなければいけないのかなというところです。

○宇津木教育部長　　ありがとうございます。

○小池図書館長　　今の話を受けてなのですけども、特別支援の話なのですが、やはり今、社会全体での理解が必要だとされておりますよね。図書館などは、やはりさまざまな方がいらっちゃって、いろいろな社会的な背景をもちろん持っているし、育ちを含めた背景を持っている人たちがいらっちゃっていて、一方で、今の時代は排除していこうという風潮もあったりして、区別するということ、そういうことも含めてあるのだけれども、根底にはやはりいろいろな人がこの社会には生きているよね、それをお互いに支え合って生きていかなければいけないよねということをごだけ思っているかというのが大事な話で、まさに室長がおっしゃったように学校だけで何かやっていく話ではない。やはり社会全体がそういうこと、少なくとも調布ではそういうことはお互いに理解し合っているよねというようになっていったらいいのかなという感じがします。

ですので、ちょっと例えば個別施策16とありますけれども、ここのところに何か本当だったら、頭出しできて、教育だけの話ではなくて、福祉の話も含めた連携話みたいなことを何か出せるといいのかなというのは今の室長の話聞いて思いました。そうすると、いじめだとかという話もちょっと変わってくるのではないかと。

○高橋教育総務課長補佐兼教育総務課庶務係長　　確かに施策の体系の中だけで単純に学校教育だけで取り組む施策とは言い切れないものはすべてといたしますか、重点課題の中で見せていくしかないのかなと。例えば特別支援教育の充実とかというものについて、では学校教育だけでなく、それぞれのところでどのように取り組むかというのを個別具体的に

挙げて、それぞれの施策の中に入れるということも必要なのかもしれないのですけれども、それだったらもう一方の重点課題というところで取組を見せたほうが、ばらけて入っているよりは分かりやすいのかなと。主に今やっているところは施策の中に入れつつ、ただ、それ以外に施策体系では見えないところを重点課題としてピックアップして取組を見せていくという方法もあるのかなと。今聞いていて、そのように思いました。

○宇津木教育部長　やはり特別支援教育というのは余り平面的にとらえなくて、やはり十分横断的に考えていかなければいけないのだろうなというか、このテーマだけではなくて、教育環境全体の話になってくるのかなという気はしているので、そういった工夫はやはり必要かなと思います。また、事務局を含めて議論をしていただきたい。学校、家庭だけではない、教育全般の話になってくるという気はします。御意見ありがとうございます。

その他、今、絡みで出たところというところ、教育相談所長などはどうですか。いじめも本当に重要課題だと思っているので、どういう見せ方をしていくかは本当に大きい問題だと思います。

○堀江教育相談所長　大きな枠でいうと、特に学校教育というところは、教育の内容というか、そういうことだと思うのです。教育課程に基づいた義務教育の教育の内容というところをこの学校教育のところで入れてくださっていると思うのですけれども、学校環境というのはそれ以外というか、環境面から子どもを支えるというようなところではあるのですが、例えばいじめのことなどは、教育の内容にもかかわるというか、そういったこともあるのかなと逆に、この環境、学校施設を整えるというようなこととはちょっと質が違うのかなと思います。

その辺が入れ方は難しいとは思いますが、事務局として環境を整えるということと、学校で子どもたちを実際に教育する、教育の内容という点で、この1番目の学校教育と2番目の学校教育環境というのを分ける、線引きするというのも1つの考え方かなと思います。教育内容をどうしていくかということと施設整備といったこととは、事務局としてやることと教育の中身というのとはちょっと違った分け方も1つの考え方かなと思います。

それとあと、基本計画に載っているものをそのまま出すのか、例えばうちのスクールカウンセリングの充実なども今のこの基本計画を作ったときは、当のスクールカウンセラーが全校配置になっていなかったのです。これがやっと決まった25年の1月か3月ぐらいのときに急にというようなことがあるので、このまま基本計画のA事業に載せるのかという

ようなことは、今後どのように考えていったらいいのかということも含めて基本計画事業として、この位置付けをいじらずこのままいくのかということも大きくは今後に影響していってしまうと思うのです。

○宇津木教育部長　　A事業の話はまた後段で少しさせていただこうと思うのですが、そういう課題があるというのは当然認識をしなければいけないと思っています。A事業はA事業全般でまた所管課長には相談はしたいと思います。

学校教育と学校環境を分けたというのは、やはり学校で先生たちがやっていくこととそれ以外のこと、ハードもありますけれども、やはりそうではなくて、子どもたちが安全・安心に勉強できるような、そういうソフト的なものも含めて学校環境と入れていると思っています。そういったところで、事務局の仕事だけという話ではなくて、そういう意味では、学校環境というべきか、教育環境というべきか分からないですけれども、いわゆる事業だけではないところの分野でさまざまところが事務局も含めて連携していかなければいけない部分を学校環境と言ってまとめたと思っています。

ここには、学校経営、人材育成、施設整備と書いてありますけれども、やはり子どもたちが安心して学べるようなところを支援していくというのが学校環境なのかな。そんなところでいじめとか、特別支援などもこういうところに入ってくるのかなと思っています。

○高橋教育総務課長補佐兼教育総務課庶務係長　　学校環境のサブタイトルはこのようにしていますけれども、安全・安心、魅力ある学校づくりみたいな、そういうイメージなのです。最終的にはやはり学校教育の中に全部丸ごと入れられなくないのですけれども、それだとやはり見せ方としては分かりにくいというか、全部一緒になってしまっているというのが、もう少しそこを切り分けてといいますか、安全・安心、魅力ある学校づくりという、そこに資するようなものは学校環境——環境というのと、どうしても施設整備みたいなイメージを持たれる方もいると思います。

○宇津木教育部長　　そうやってサブタイトルを入れればイメージが違ってくるかな。

○高橋教育総務課長補佐兼教育総務課庶務係長　　そういうイメージでちょっとフィルターを掛けたという内容になっています。だから、最初は⑦にある特色ある学校づくりとかというのはなかったのですけれども、魅力ある学校づくりと言えればいいのかとか、少し考えて増やしたりはしています。安全・安心というのはやはり重要なキーワードだし、魅力ある学校づくりというのは、学校を経営していく中で、各校長先生方も苦勞して、いろいろ取り組まれていると思うので。

○宇津木教育部長　　学校に行きたいというようになれるようにしていきたいというのはこの辺なのかなと。勉強だけではなくて、というところだと思うのですが。

そういった意見も踏まえて整理をしていかないといけないかなと。社会教育課長、何かないですか。生涯学習と地域・家庭教育。

○小柳社会教育課長　　いろいろとさっきから考えているのですが、分けられればいいと思うのですが、生涯学習と言ったときに、さっき部長がおっしゃっている、向こうは生涯学習で市長部局があるではないですか。それが教育委員会の中であって、そこを市民が見たときに、何か戸惑うかな。

○宇津木教育部長　　逆に言うと、市民から見て、社会教育って分かるかなというところがちょっとあったのですよね。

○小柳社会教育課長　　それはそうなのですから。

○宇津木教育部長　　だから、社会教育施設というと、図書館、公民館、郷土博物館と出てくるのですが、それが社会教育という形で抑えてしまうと、本当に小さいものになっていってしまう。生涯学習というと本当はもっとすごく大きな話で、人権が入ったり、文化が入ったり、スポーツ——当然スポーツが生涯学習を支えていくものなので、そういうものもあるのだけれども、生涯学習は本当に全部になってしまう。まちづくりも含めて、全部になってしまう。市は生涯学習施策から、参加とか協働を切り離して、他の部署に移して強化をしている。施策の内容的には、生涯学習イコール社会教育になってしまっている。生涯学習に掲げられている事業というのは、ほとんどが社会教育の事業となっている。教育基本法も生涯にわたって学習、支援していくのだということを言っているのです。そういった意味では、ここではもう頭出しを、国や都に倣って、生涯学習と言ったほうが市民にとっては分かりやすいのかなと。

○小柳社会教育課長　　分かりやすいですね。

○宇津木教育部長　　公民館は、社会教育施設であると同時に、生涯学習施設ともいえる。図書館にしる、公民館にしる、郷土博物館にしる。そういった考え方のもとで、イメージを変えていかないといけない。

○小柳社会教育課長　　今まで生涯学習というように教育プランの中で言っていなかったけれども、今度言うではないですか。言うとなると、向こうにも生涯学習があつて、新たに言うということが、例えば市民からいうと、では、向こうがこっちに来たのかなというように、今おっしゃるように特に変わっていないのだけれども、国の考え方が生涯学習だ

よということ載っけたのですが、載つけるということでもいいのですが、何かそこがあえて生涯学習を前面に出したことが、特に変わりはないが、今までどおりなのだけれども、変えたというところがうまく理解してくれればいいのですが。

○宇津木教育部長　この教育プランの中で変えたというイメージを与えられるかどうか。

○小柳社会教育課長　そこがちょっと懸念しているところで、私はそこだけです。

○高橋教育総務課長補佐兼教育総務課庶務係長　今まで施策展開の視点というのがなかった中で、特に出しても、前回、社会教育というのを出して、それを生涯学習に変えたということなので、ちょっとどうかなという議論はあるのかもしれないのですが、今までの教育プランは、施策展開の視点でこういう4つに分けていなくて、基本方針にそのまま施策とか事業がぶら下がっているという内容だったので、特に違和感はないのかなという気はするのです。

○宇津木教育部長　自分はもう基本方針4、生涯にわたって自己実現という方針を受けて、生涯学習と言ってしまったほうがかえって分かりやすいのかな。

○小柳社会教育課長　ただ、市民が市長部局を見て、教育委員会を端から見たときに、こっちもうたっている、こっちもうたっているということへの何か戸惑いがなければいいな。だから、教育委員会としての思いはいいのです。生涯学習と出すことについて、市民に戸惑いがいいかなと。

○宇津木教育部長　そうですね。ただ、自分はそこの課題を、調布は、生涯学習と社会教育が別々にあるというほうが問題かなと。何で2つあるのかが分かりにくいというのが一般の人の感覚では。そこの説明をしっかりとできるのか。生涯学習施策自体どんどん変わっているので、そこをやはりここでクリアしていかないといけない。あえてそうしたことも意図している。生涯学習と言ってしまって、社会教育がなくなってしまうと思う人があるのか。生涯学習の中には、社会教育とか成人教育とか、みんな入っていると、一般の人は認識するのではないかな。

○小柳社会教育課長　自分は生涯学習というのは大賛成なのです。引き続き社会教育と言いたいとかは一切思っていない。そうではなくて、生涯学習と言うことが、向こうとの関係で、向こうも生涯学習をちゃんと柱で持っているのです、そこだけです。

○宇津木教育部長　言っている意味は分かります。ただ、向こうとかこっちではなくて、生涯学習という大きなくりの中で、市とか教育委員会は動いているのだろうなという話です。全市的にやっている話なので、もともと教育委員会だけが生涯学習をやっているわ

けではないので。

○小柳社会教育課長 両方がやっているというような。

○宇津木教育部長 たづくりもそうだし、先ほど言っていた文化だって、スポーツだって、みんな本来は生涯学習です。

○高野郷土博物館長 消費者教育もですか。

○宇津木教育部長 そうです。みんな生涯学習になってしまうので。

○小柳社会教育課長 要するに両方でやっているのでは……

○宇津木教育部長 全市的にやっているのが生涯学習なのです。確かに教育委員会の中で担っているのは図書館とか公民館とか非常に限られた分野です。それを今まで社会教育というくくりの中で言っていたから何かちょっと違う存在なのかなと思うのだけれども、別に全く違うものでも何でもないので、同じものなので、言い方を変えているだけですから、生涯にわたって学習していく視点、勉強した成果をまちづくりに生かしていきましようという視点が出てきたというだけの話だと思うので、有料とか無料とか、そんな話をするつもりも全くないし。

生涯学習と社会教育は、時代背景から言ってしまうと難しくなってきたところがあるのですけれども、でも、当然みんな時代背景を意識しておっしゃっていますから、そこはちゃんと説明しておかなければいけないと思います。

○高橋教育総務課長補佐兼教育総務課庶務係長 あと、その関係で、⑫の青少年の育成というのが、自分の中でももう少し肉付けできないのかなと。青少年の育成ってどう育成するのかと。

○宇津木教育部長 ある意味、健全育成の話なので。

○高橋教育総務課長補佐兼教育総務課庶務係長 そこは前、家庭の教育力の向上などあったのですけれども、学校教育の中でも、学力の向上とかもあって、それは結果とか目標みたいなものなので、育成みたいなこととか支援とかというように言葉をちょっと変えてしまっている部分が実はありますので、青少年の育成というのは、ちょっといま一つよく分からない。

○宇津木教育部長 今、具体的にあるものは載っているような内容なのだけれども。

○高橋教育総務課長補佐兼教育総務課庶務係長 このリーダー養成講習会というのもA事業になっているのですけれども、この辺は自分は何をやっているのか分からないというのがあって、教えていただきたいなど。この辺の事業は、連携という中に入れているのは、

学校・家庭・地域で連携して青少年の育成。どう育成するのかなという。ここら辺どのように表現していくかというのがちょっと悩ましいかなと。

○小柳社会教育課長　だから、これは隣でいいのではないですか。生涯学習のところに持って行ってしまったっていいと、そういう意味ではない？

○村木指導室長　それもありですよ。

○宇津木教育部長　自分にあえてこっちに持ってきてもらった。やはり子どもたちを地域の中で育てていくという視点なのかなと。健全育成地区推進委員会のイメージなのですが、けれども、やはり子どもたちを、このリーダー講習会もそうですが、やはり地域の人たちが見守ってやっている。それは生涯学習とはちょっと違う視点で皆さんやっているのだらうなど。子どもたちをやはり地域で見守って、健全に育てていこうという視点なのかなと。

○高橋教育総務課長補佐兼教育総務課庶務係長　それは青少年教育という分野の。

○宇津木教育部長　昔で言えば。青少年教育って公民館でもやっているのだけれども、そういう話ではなくてということですよ。

○高橋教育総務課長補佐兼教育総務課庶務係長　その辺が私はよく分からないのですよね。八ヶ岳の施設の運営もここに入るのか、青少年交流館とか。

○宇津木教育部長　社会教育施設だからね。青少年のための施設。

○高橋教育総務課長補佐兼教育総務課庶務係長　その辺は何のためにというのがちょっと。もう一つ事業の中身が見えないというか、知らないだけなのですからけれども。

○宇津木教育部長　生涯学習は、単純に自分たちの学習的な側面なのだけれども、青少年の育成というのはもっと具体的に子どもたちとかかわっている事業ですよ。子どもたちが成長していくために、いわゆる悪いことに手を出さないようにというところの中で、地域の方々が主になって事業をやっている内容をここに入れていく必要があるのではないかな。それはやはり子どもたちを安全に安心に見守っていこうというところの中で、家庭とか地域の教育力の話だと思うので、それで自分は生涯学習ではなくて、こちらではないのかという提案をさせてもらったのです。

○高野郷土博物館長　また部活とは違って。

○宇津木教育部長　そうですね。

○高野郷土博物館長　小学校とか中学生などは、うちの子どももソフトボール、小学校の頃ずっと健全育成でやったのですけれども、地域のお父さん、お母さんたちが音頭を取ってくれて、それで監督とか、そういうのも得意な人たちがやってくれるという、そんな

つながりというか、コミュニティーみたいな、また全然違う地域のつながりの中で礼儀とか礼節ではないですけども、そういうものなども学習していくのかなという感じがします。その辺の連携ができたらなど。例えば青少年の育成というのは、学校・家庭・地域の連携の中に入れてほうが良いような。

○高橋教育総務課長補佐兼教育総務課庶務係長　その考え方はすごく分かるのですけれども、調布っ子夢会議とか。

○宇津木教育部長　だから、個別の事業を判断してしまうと、どうするかというのが出てくるのだけれども。

○高橋教育総務課長補佐兼教育総務課庶務係長　連携の中になじむのかなというのも正直ある。ユーフォーとかリーダー講習会とかというのは何となく連携なのかなというところはありますけれども。

○宇津木教育部長　イベント的なものまで細かく入れ込もうとすると、やはり難しくなってきたりする。

○高橋教育総務課長補佐兼教育総務課庶務係長　調布っ子夢会議とか成人式とかという中で連携……。ちょっとその辺が難しいなど。生涯学習でもないしなど。主要事業とするか、しないかという部分になるのかもしれないのですけれども。

○宇津木教育部長　個別の事業は、ちょっと細かいのがあり過ぎるのは事実なので。青少年の育成、若干分かりにくい……そういった意図で自分は地域の連携というところの中で頭出しをしていく必要があるのかなと。子どもたちをやはり見守っていくという視点が欲しいというところなんです。それは結構地域の人たちが熱心に力を入れてやってきてくれている話なので、そこはやはりそういったことをこちらも応援、支援していかなければいけない。地域にやってくださいという視点なのだけれども、それは我々もそれをお願いしていくという立場で頭出しをしていく必要があるのではないかなと。

○高橋教育総務課長補佐兼教育総務課庶務係長　あと、先ほどちょっと室長が言われていた、学校環境の④と⑥の話。この辺をどう出していくか。学校の安全・安心、魅力ある学校づくりという中で、④と⑥が入れているのですが、いじめ、不登校対策というものについては、確かに安全・安心というところで、ここの事業としてはB事業で不登校児童・生徒への支援とか、A、B以外の事業でいうと、メンタルフレンドの派遣とかテラコヤスイッチというようなどころを入れてはいるのだけれども、それと教育相談と包含して何か表現できるか否か。その辺がちょっとお知恵を拝借したいなというところもあります。

もう少し施策を上位概念にして、児童・生徒の安全・安心、学校づくりのための取組とか、ちょっとその辺が悩ましい課題かなというところですかね。

○村木指導室長 施策のときには、教育相談の充実ぐらいにしておいて、事業のところではじめ、不登校対策の強化とか、そっちへ持ってきてしまうと具体的なのかなという気はするのですけれども。基本計画のBの不登校児童・生徒への支援というのも、これはもう教育相談の中の一環だと思うのです。

○宇津木教育部長 どうですか、事務局。

○高橋教育総務課長補佐兼教育総務課庶務係長 そうですね。その辺はちょっと整理が必要なのかなという。

○宇津木教育部長 その他。私、防災教育などを載せたいのですけれども。

○阿部教育総務課長 新たな重点課題で取り出しておけばいいかな。

○宇津木教育部長 新たな重点課題って、どのレベルで新たなという話になるのですか。

○阿部教育総務課長 でも、もともと防災教育の日は前の教育プランでも平成22年3月に作ったときには入ってなくて、修正の段階で事業だけ入れた。

○宇津木教育部長 地域の連携という、どうしても総合防災の話になってしまう。

○阿部教育総務課長 だから、学校・家庭・地域の連携のところに入れて、では、どのように取り組んでいくのか。

○宇津木教育部長 防災教育。学校の中でも結構いろいろ重みを占めているカリキュラムなのかなというところはあるのですけれども、どこに入れるかというところ難しいところですね。

○村木指導室長 難しいですよ。防災教育はやはり連携がすごく大事だと思うし、学校だけでできるものではなくて、やはり市民全体で考えていかなければいけない話。ただ、教育と考えたときにはやはり安全教育、防災教育というのはセットだと思うのです。だから、2つ見せ場があってもいいのかなという気はしますけれども。

○小池図書館長 何となく防災教育という、教育の話ですけれども、何かあったときにどうしようというのは防災の体制ですよ。だから、防災体制の中に防災教育が入る。それは子どもたちが日ごろからそういう危機管理の意識を持つというのも教育だし、それから地域の中での人たちがそういうことを持つということもあるし、今回は地震があったから、近くのところでどう地震に備えましょうということで今すごくやっているわけですよ。でも、広い部分で見たら防災の体制はもうちょっと違うものも、大火事が来た

らどうしようとか、そういうことなどもあるでしょうから、やはり何か違う。でも、教育委員会がもしするのであれば、そういう防災意識を学校においては子どもたちが持つし、地域の人たちがどうやって持てるかということに意識を持って何らかの施策、あるいは事業をやっていく。公民館がされているような防災の講座だとかもあるだろうし、図書館でそういう講座をやったり、あるいは資料を用意してもらおうとか、そんなことを実際にはやっているのですよね。

でも、聞いていると、地区協の人たちもかなりまとまって、話題としてやはりそれがすごくあって、四中の辺りとか調和の辺りなどはすごく体制が強いみたいなので、ああいうのを聞いているとしっかりしているのだななどと思うのです。体制はかなりあの辺はできてきている。

○宇津木教育部長　やはり何らかの形で見せ方を工夫しないと、教育どうなっているのという話にもなりかねないかな。このA、B以外の⑬のところに防災教育の推進と入っていますけれども、個人的にはどこかで頭出しをする必要があるのかななどちょっと思っただけです。教育がやるかどうかではないのです。そういう問題ではない。教育は教育の中で学校の中でもちゃんとやっているし、今も各施設の事業でも市民向けにやってくれているのだけれども、とはいっても、地域の防災力を強めるという視点をどこかに入れていく必要があるのかなと。子どもの安全を守るためでもあるのだけれども。

○高野郷土博物館長　地区協でまち歩きをいろいろやっているのですけれども、例えば要望を全部出して、どのぐらい達成されたのかというか、例えばここに横断歩道を作りたいとか、カーブミラーを付けてほしいとか、達成のチェックもやるようにしている。なので、それを回って、今度31日にまた会議をやるのですけれども、結構、教育委員会だけではなくて、そういう応援組織がいっぱいあってもいいのかなというのはあるのです。

物理的に絶対、どんなに市役所が頑張っても無理な部分はあるではないですか。ここは聞いてもらえなかったとか結構いるので、再三言っているのに全然ここは直っていないとか。把握しているというか何というか、知っておく必要があるかもしれないけれども、全部教育委員会がかぶる必要もないし。

○宇津木教育部長　そうですね。そこはやはりここの学校・家庭・地域のところがちょっと大事な視点なのだろうなと思っています。

○小柳社会教育課長　1ついいですか。今回個別施策16で、これが新しく施策に分けた分。ここに重点課題を16プラスアルファで載せようということなのですからけれども、この重

点というのは短期的な重点、それとも今後もずっと引きずる。つまりこの16が定番型の16でプラス短期的な暫定的なものを載せるのかによって、中には、この重点課題を含めて今回新たにやるので、この16の中に含める、もしくは特にアレルギーなどというのは、調布の場合は、例えば出したほうがいいのであれば、この16の中に今回新たにということを入れてしまったほうがいいのかと少し思うのです。もともと16あって、今回プラスアルファとして入れるのだけれども、16そのものも新しくするわけなので、何となくプラス重点課題という位置付けをどうするかによって、暫定的なものだけをプラスアルファするのか。そういう点でアレルギーというのは、例えば16の個別施策の中の1つとしてあったほうがいいのかとちょっと思ったり。

○宇津木教育部長　新たな重点課題、あるいは新たに特出して取り組むべき課題というところ、ちょっともう一回事務局の考え方を説明してください。

○高橋教育総務課長補佐兼教育総務課庶務係長　基本的にはこの基本的な個別施策に載せるものについては、長期的にと言ったらあれですけども、平成22年に教育プランを作った中で、10年後の調布の教育を見据えて教育プランを立てて、今後5年間で取り組むべき施策とか事業を明記したという内容だったと思います。今回の改定の中では、その基本的な考え方を変えずにといいますか、踏襲しながら、今回、調布市の基本計画が変わること、改定することと併せて、計画期間としては、今回の教育プランは、平成27年から34年の8年間やっていくものとして施策を打ち出していくということと、施策と主要事業については4年間に取り組んでいくものというようなところの打ち出しはしていくものとしています。

重点課題については、個別の施策に入れるべきものでないものといえますか、先ほどあったような横断して取り組むようなものであったり、施策には入れられないのだけれども、例えば教育委員会制度改革に対して対応していくこととか、そういう視点で出していければいいのかと。だから、施策とはちょっと違う横断的な取組であったり、施策には入れられないけれども、対応としては図らなければならないものであったり、そんなところではあるのです。見せられるものであれば、特にこういったことに重点的に取り組んでいきますよというところのほうがいいのかなどと考えていたのですが、確かに個別施策とどう分けて見せていくかというのはきちんと整理しておくべきかなと思います。例えば、学校施設老朽化・長寿命化・防災機能の充実と書いてあるのですけれども、これは⑨の中で表現できなくはないかなというところでもあります。

それ以外、個別の施策だけで表現できないとか、横断的になってしまうものはやはり別に示しておいたほうが分かりやすいのかなと。

○小柳社会教育課長 施策と並ぶようなものではないですね。

○高橋教育総務課長補佐兼教育総務課庶務係長 そうですね。

○小柳社会教育課長 施策プラス別に課題として教育委員会制度改革とか、そういったことを頭出しする。それはいいと思います。ただ、アレルギーの問題は例えば食の安全とかというのは、個別施策に出してもいいのかな。教育の一環の1つですか。

○高橋教育総務課長補佐兼教育総務課庶務係長 ただ、例えば医師会と連携していくこととか何かいろいろこの個別施策の中だけでちょっと表現できなければ別に頭出ししていい。この中で言ったら、多分、学校環境の中に入るのかなと。危機管理体制の強化などと言って、A、B以外の事業でアレルギー疾患の取組などに入っている中で、この中にとりあえずは入るのかなというところですけども。

いずれにしても、危機管理体制、さっきの防災教育の話もそうなのですけども、アレルギーだけを入れていますが、ほかにも災害対応だとか、震災対応だとか、防犯対応とか、学校で危機管理体制を組んでいると思いますので、そういった取組になってくるのかなと思うのですが、防災教育の日をここの危機管理体制の強化とかに入れるべきかどうか、私は悩ましくて、ちょっと難しいのかなと。

○宇津木教育部長 今の意見に対してはどうですか。重点課題というのをこれからは少し作って行って、経常的な事業の中で評価とか点検には値しないけれども、経常的な取組の中で、特出すべき課題みたいなものについては、やはり重点課題としてピックアップしていくというのはありなのかなと。アレルギーなどというのはやはり重点課題でもあるし、施策にもなり得るようなところはあると思うのですけれども、全体の中で、給食提供の中で取り組まなければいけない全般的な話でもあるので、その辺は今後どうしていくか課題にもなってくると思います。

大きな課題としては、施策にはあっても、いじめとか貧困の問題といったものも、やはり今の時代の中では出さざるを得ないところはあると思うのだけれども、それは施策としてはまたちょっと違うのかなというところはあるので、そういったものもこういう重点課題としてとらえていますというのはあってもいいのかなという気はしています。

子どもの貧困対策とか、今そういう中で——ただ、それに対して1つの事業で対応していくとかという話ではない。それは教育の中でもやはり大きな課題として取り組まなけれ

ばいけない。やはり社会全体の問題だと思うので、そういったところはこういう重点課題で拾っていてもいいというところはありますよね。

微妙なものはあると思います。アレルギーなどもどっちでというのはなかなか難しいところかなとは思いますが。施策として取り組んでいくとなると、では、具体的に何をいつまでに、どのようにやっていくのだというのも出てくるので、その辺はまた大変なことは大変ですよ。

どうでしょうか。公民館は何か意見ないですか。社会教育関係でなくてもいいと思うのですけれども、全体、教育プラン。この後、点検・評価も当然入ってくるのですけれども。

○金子東部公民館長　このまとめはこれでいいと思うのですが、世の中というか、流れが社会教育から生涯学習のほうに流れている中で、当然、今後の公民館の在り方、名称も含めてだと思のですが、その辺のことがあるので、施策はしようがないにしても、それ以外の事業で公民館という言葉を使ったほうが現時点では分かりやすいのでしょうかけれども、どうなのかなというのは個人的に思いました。

○宇津木教育部長　それは、運営のことも含めて今後の課題なのかなとは思いますが。学務課さん、どうですか。

○窪田学務課主幹　先ほどアレルギー疾患等への事故防止に対する取組というところでお話がありましたけれども、アレルギー疾患というのだと結構幅が、範囲が広いので、学務課としては食物アレルギーというところで議論していった、「等」の中にもいろいろな、先ほど言った学校での食といったところもある程度同様にしたほうがいいのかと。

○元木学務課長補佐　学務担当で申し上げます。児童・生徒の安全確保というところなのですけれども、これはこれでいいと思うのです。ただ、出し方としては、本当は通学路の安全確保は登下校のところなので、学校内部としては安全確保はこうしていますよ。もう1つ、学校外という、違う場所のところではこうしていますよと、本当は2つの見せ方のほうが情報としてはいいのかなと思います。

○宇津木教育部長　いかがですか。どうですか、事務局。全体を通して。

○高橋教育総務課長補佐兼教育総務課庶務係長　本当、皆さん、それぞれお考えがあるの分かりまして、これをどう修正を掛けていくかというところがちょっとまた課題でありますけれども、おおむね、これは反対だということはないのかな。これをもう少しまた修正を掛けていくような形で、次回、お示ししていければとは思っているのですけれども、できれば、次回までにはおおむね固めていきたいということもある中で、ちょっ

と今回、我々として出したもので、表現は少しまたトーンを合わせていく必要もあるのですが、これは主要事業だとか、主要事業ではないというものもやはりちょっと整理したほうがいいのかなど。A、B以外の事業のところは、ざっくり挙げているのですけれども、この辺をもう少しはっきりさせていきたいなど。

例えば、今の教育プランでいうと、138事業あるのですけれども、これはおおむね主要事業ではないものもかなり含んでしまっていますよね。うちのほうで今それを精査して、主要事業をリストで分けて選別したので、それを皆さんに、それでいいかどうかというのをちょっと確認してもらおう。それを集約して、A、B以外の事業に載せたり、ここをまとめて掲載したりというところで、その事業のくくりはどのような事業という作業をしたいと思っています。それを確認した上で、表現の整理という作業をしていきたいと思っています。

それと、主要事業が固まったら、次はプラン、今後4年間でその事業をどう進めていくのかという実際のプランといいますか、事業計画といいますか、それを出していってもらおう作業にもう入っていく。やはり8月の終わりにそれを1回この会議で確認し、ある程度素案というか案を固めていきたいというところで考えていますので、今日、資料を出して説明し、意見交換させていただいたのですけれども、その辺、今日を踏まえて、もうちょっとこうしたほうがいいのかというのであれば、我々のほうにお寄せいただければと思います。

○宇津木教育部長　　今、事務局から今後の進め方とか若干日程も入っていたのですけれども、今日、幾つかやはり課題が出た、それぞれの所管の部門でも疑問が出たところはあると思うので、この施策展開の視点とか個別の施策のところをもう一回各所管で見直してもらって、事務局のほうに個別に意見等々直接出してもらったほうがいいのかと思います。もう少し分かりにくかったら、やはり事務局とひざを突き詰めて議論したほうがいいのかと思いますので、全体で集まるのは別にして、各所管の御意見を率直に事務局にぶつけていただきたいと思います。その中で今言ったような形で次回までには骨格を固めて、主要事業も並行して、4年間の取組の内容みたいなものも、やはり考えていかないといけない。そこは並行してやっていかないといけないと思いますので、継続というのも多いとは思いますが、それはそれで教育は仕方がないとは思いますが、そういったところ、4年間の中長期の視点を持って考えていただきたいと思います。

そんな中では、先ほど言っていた重点課題というのをやはりちょっと頭の中に入れなが

ら、まちも変わっていくとか、これからの景気の動向とかいろいろな話、市長もされていたと思いますが、そういったところも含めながら、教育の在り方、学校教育、社会教育の在り方は、視点を持って考えていかなければいけないと思います。施設の老朽化も本当に待ったなしなので、何を優先してやっていかなければいけないかというところをもう一回、みんな意思統一していかないといけないのではないかと。あれもこれもやはりできないのと思うので、その中で自分たちの考えていることについては優先順位を必ず付けてほしい。何をまずやらなければいけないのか、次はこれ、次はこれという形で、どれもこれもという形ではなく、4年間何をやっていきたいのだというところを見せていただきたいと思いますので、ぜひその辺をもう一回持ち帰っていただいて、なるべく早目に事務局とも相談していただきたいと思います。

今日のこの資料7については、早目にまた意見を個別に事務局にぶつけてほしいと思いますので、よろしくお願いします。

その他、なければ、事務局、また次回以降の話をちょっと念押ししていただきながら、皆さんの意見をもう一回、最後、聞いていただいて。

○高橋教育総務課長補佐兼教育総務課庶務係長　　今、ちょっと先に話してしまいましたけれども、日程のほうにも記載しましたが、基本的には今回お示しした資料7を詰めていく作業をやっていきたいと思っています。

今日、説明した資料、意見交換した内容も書き留めたりしていますけれども、ほかに気づいた点ですとか改良してほしい、改善してほしい事項があれば、教育総務課のほうまでお話ししていただきたいと思います。

それで、この体系を確定していくということと、特に主要事業のところ、基本計画A事業は今の計画を載せてあるだけなので、そこは基本計画の改定と合わせた内容でこちらのほうも記載していく形になると思います。

B事業については、今ここに全部入れているのですけれども、主要事業とは言い難いというものであれば、当然なくすとか、この機会に見直すということも必要なのかなというところもありますので、ここも再度各課のほうで見直しを掛けていただきたいということ。

それから、それ以外の主要事業というところで、これも我々のほうでちょっとここにいったん挙げてはいますけれども、そうではないというところがあれば、出していただいて、主要事業のほうを固めていきたい。

やはり、今回の教育プランで事業数が多いというところもありますので、なるべく余り

細かい事業を羅列するという事は避けていきたいとは思っていますので、その辺はちょっと事前に御了承いただきたいと思っています。

その辺が確定できたら、今後4年間の主要事業の事業計画作りも併せてやっていかなくはなりませんので、その辺のスケジュール、締め切りだとかそういったものも各課のほうには御連絡していきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

それらの作業をしながら、次回の会議については、8月27日水曜日の部内会終了後という形でお願ひしたいと思ひます。

以上です。

○宇津木教育部長　今後の進め方と日程については以上という形なのですがけれども、早目早目にとにかく相談していただくのが肝心かと思ひますので、よろしくお願ひします。

自分のほうも、施策評価の報告会が終わって、行政経営会議が終わって、施策評価シートの見直しとかは施策の所管課長、始まっていると思うのですがけれども、そこの話を進める中で、基本計画事業13本の事業、今後の4年間、どういった形で今考えているのかを各所管の課長とはヒアリングをしたいと思ひます。今どのように考えていて、どのようなスケールになっているのか、その辺をお聞かせいただきながら、何をねらっているのかというようなところをちょっと確認していきたいと思ひます。

特に大きな施設整備は、本当に何を新しく入れていって、どう優先順位を付けるのか、どの規模になるのかをちょっと入れていかなければいけないと思ひますので、4年間の内容も含めて、また4年後の布石もここで打っていかなければいけないという形で、基本計画事業についてはお話をしていきたい。先ほどのスクールカウンセリングなども、全校配置はされたけれども、スクールカウンセリングとか少人数教育、先生の加配とか、本当にどんな効果が出ているのかと。逆に言うと、どういうカウンセラーとか加配を入れたのかなどというのがもしあるのだったら、そういったところをちゃんと出していかないと、やはり検証していかないといけないのではないかと思ひます。配置はしたけれども、実際何ができているのかとか、効果が出ているのか。もっと強化しなければいけないのか、あるいは質を高める。人をやはり育てなければいけない部分なのか、そういったところを、カウンセラーとか少人数などの事業についてやっていかないといけないのではないか。当初の目的を達成できているのかどうか、ただ配置というのはやはり目標ではないと思ひますので、その辺の検証、ぜひお話を担当課長とさせていただきたいと思ひます。その中で改定基本計画、表には出せないにしても、中身としてはこういうことを考えているという

ところを出せればと思います。

その他、次長、何かないですか。

○塩足教育部次長 冒頭であった個別施策の①から⑯の並びだとか若干の違和感はどこにあるのかななどと思って見ていましたけれども、1つは、やはり計画の体系みたいなものというのは、目的が設定されていて、その手段が示されて、その手段に対する目的があって、また手段がみたいな、目的、手段、目的、手段みたいなところがあると。

今回、この資料の中でよくまとまっていて、議論しやすかったと思うのですが、施策展開の視点の4つの項目の下に「徳知体の調和のとれた成長と社会の変化に対応できる力の育成」と書いてあって、これがあるから非常に分かりやすいのだよね。それを見て、個別施策16の①、②、③を見ると、徳知体の個別のことは書いてあるけれども、学校教育の下に書いてある、調和のとれた成長と云々ということは、ここだけだと見えてこない。ひょっとしたら、徳知体の徳だ、知だ、体だというのをやるということを主張しているのではなくて、その調和のとれた云々をしようとしているということであると、この見せ方は、目標を示しているのか、その目標に含まれる手段の要素を示しているのかというようところがちょっと気になってきた。

次に、それを学校環境というところで見えていくと、学校教育支援（ソフト・ハード）、学校経営、人材育成、施設整備と書いてあって、これで学校環境は何を目指しているのかすごく分かりやすくなっているのだけれども、④から⑨というのは、果たしてここは目標が書いてあるのか、手段が書いてあるのか。どっちでもいいというか、ちょっとその辺のところが整理されてくると、レベルだとか書き方が整ってくるのかなという気が、正解はまだ持っていないのだけれども、ちょっと感じるところです。

あるいは、これからプランを作っていくときに、学校教育の下とか学校環境の下に書いてあるようなこと、この記述を大事にすると、周りの人に非常に分かりやすい作り方ができるのかなということも併せて感じました。

同じこの施策展開の視点と個別施策のところに絡んで、学校教育と次の学校・家庭・地域の連携のところは、学校教育支援という言葉が両方とも出てくるのだよね。因数分解的にやっていると、これ、くくってしまうのではないのと。学校教育支援というのをやって、学校経営、人材育成、施設整備、学校・家庭・地域の連携による学校支援というようなことも可能かどうか。あるいは、3番のこの四角というのは、やはり基本目標に照らして、独立した項目で出さなければいけないとかがあるのか、数を4よりは3に減らすというこ

とであると、減らすことも可能かなとか。

全体のこの4つの構成のうち、上の3つは何だかんだいって学校教育のことですと。それで生涯学習があるという、2個しか本当はないのだと。2個のうち、学校教育が特出しであって、そのサブ項目として学校環境と連携があるとすると、くくってもいいのかなというような気もしないでもない。

くしくも、多分余り意図しなかったのだろうけれども、中身を見ていこうと思ったら、学校教育支援というワードがたまたま一致したのかなという、ある視点から見ると、結構、親和性のある2つの項目なのかなというような気がした。

そんなところから、冒頭に戻るけれども、16のところは目的なのか手段なのか、あるいは要素だけを示しているのかとか。要素を示したほうが中身を分けやすいときもあるので、何とも言えないのだけれども、その辺のところを見比べて、統一したほうがいいのか、ジャンルごとにこういうくくりをしたほうが中身を示しやすくなるのか、その辺をちょっと意識してもらおうと、16がまた違う16になってくるのかなという気がしました。それをちょっと工夫してもらえると有り難いなど。

もう一点、2点目は、個別施策16プラス重点課題ということで、これがあることによって拾えていないものが拾えてくる、いい工夫だと思うのだけれども、やはり例に出されているところが、特別支援で質問があったり、施設のことはこうだとかというところがあったので、ここについてはもう少し考え方を整理する必要があるかなと。アイデアとしてはいいので、それをうまく生かすというところ。

自分的には、やはり教育委員会制度改革への対応と、いじめはやはり出しておかなければいけないのかなとか、あるいは、最後、部長が言っていたように貧困対策、こういう辺りは体系の中でも拾い出しにくい、あるいはまだ体系には教育委員会としては位置づけにくいものだけれども、ちゃんと意識していますということを出すためには必要な場所で、使いやすい場所になるかなというところで、ちょっと可能性を感じるので、ここはぜひうまく整理してもらえればと。

今日は、資料7が非常に議論しやすかったかなという気がしますので、資料8を期待しています。

○宇津木教育部長 指導室長も室長の立場から、ほかの教育プランもいろいろ見てこられていると思うので、室長からもお願いします。

○村木指導室長 お疲れさまでした。どうしても学校教育中心になりがちなのですけれ

ども、飽くまでも学校教育はその一部でしかないのかなと思っています。具体的な策というのは、子どもが対象なので、子どもの成長に合わせて立てやすいのですけれども、またそれが大人を対象となると、施策も非常に立てにくいというところがあるのかなと思います。

ただ、今回のこの資料7はとても分かりやすく分類されていて、文言の整理だとか、まさに学校教育と生涯学習の重なっている部分も確かにあると思うのです。その辺りをどのように整理していくのかということと、やはり社会が大きく変化してきているので、それを受けた重点課題という位置付けはとても大事だし、そこをどういう調布なりの特色を出していくのかというのがやはり求められていると思いますので、また引き続き議論していければと思っています。

以上です。

○宇津木教育部長　　ありがとうございます。

貴重な時間、どうもありがとうございました。今日、大分形が見えてきたのかなと。事務局のこの資料に基づいた議論が少し煮詰まったかな。課題が見えてきたかなという状況だと思います。今日出た意見を踏まえて、しっかりたたいていきたいと思いますので、やはり日ごろからの皆さんの意見が大事なので、思い付いたことをどんどんメールとかで事務局に言ってください。それをこの教育プランの中に入れ込んでいきたい。やはり日ごろ大切だと思っているエッセンスを入れ込んでいかないと、単純に見ただけではないと思いますので、皆さんの思いを込めていきたいと思いますので、ぜひ忌憚のない意見をお願いしたいと思います。

では、今日の会議はこれにて終了とさせていただきます。どうもありがとうございました。